



網走月報

発行所
天理教網走大教会
教務部出版掛
〒093-0073
網走市北3条西6丁目
TEL 0152-43-2227
FAX 0152-44-2227

諭達第四号ご発布

教祖年祭の意義をしっかりと心に治め、成人の歩みを進めよう！

諭 達 第 四 号

立教百八十九年、教祖百四十年祭を迎えるにあたり、思うところを述べて、全教の心を一つにしたい。

親神様は、旬刻限の到来とともに、教祖をやしろとして表にお現れになり、世界一れつをたすけるため、陽気ぐらしへのたすけ一条の道を創められた。

以来、教祖は、月日のやしろとして、親神様の思召をお説き下され、つとめを教えられるとともに、御自ら、ひながたの道をお示し下された。

そして、明治二十年陰曆正月二十六日、子供の成人を急ぎ込まれ、定命を縮めて現身をかくされたが、今も存命のまま元のやしきに留まり、世界たすけの先頭に立ってお働き下され、私たちをお導き下されている。

この教祖の親心にお応えすべく、よふぼく一人ひとりが教祖の道具衆としての自覚を高め、仕切って成人の歩みを進めることが、教祖年祭を勤める意義である。

おさしづに、ひながたの道を通らねばひながた要らん。(略)ひながたの道より道が無いで。(明治二十二年十一月七日)

と仰せられている。教祖年祭への三年千日は、ひながたを目標に教えを実践し、たすけ一条の歩みを活発に推し進めるときである。

教祖はひながたの道を、まず貧に落ちきるところから始められ、どのような困難な道中も、親神様のお心のままに、心明るくお通り下された。

あるときは、「水を飲めば水の味がする」

と、どんな中でも親神様の大きな御守護に感謝して通るところを教えられ、また、あるときは、「ふしから芽が出る」

と、成ってくる姿はすべて人々を成人へとお導き下される親神様のお計らいであると諭され、周囲の人々を励まされた。

さらには、「人救けたら我が身救かる」と、ひたすらたすけ一条に歩む中に、いつしか心は澄み、明るく陽気に救われていくとお教え下された。ごぼを慕い親神様の思召に添いきる中に、必ず成程という日をお見せ頂ける。この五十年にわたるひながたこそ、陽気ぐらしへと進むただ一条の道である。

今日、世の中には、他者への思いやりを欠いた自己主張や、刹那的行動があふれ、人々は、己が力を過信し、我が身思案に流れ、心の闇路をさまよっている。

親神様は、こうした人間の心得違いを知らせようと、身上や事情にしろしを見せられる。頻発する自然災害や疫病の世界的流行も、すべては私たちに心の入れ替えを促される子供可愛い親心の現れであり、てびきである。一れつ兄弟姉妹の自覚に基づき、人々が互いに立て合いたすけ合う、陽気ぐらしの生き方が今こそ求められている。

よふぼくは、進んで教会に足を運び、日頃からひのきしんに励み、家庭や職場など身近なところから、にをいがけを心掛けよう。身上、事情で悩む人々には、親身に寄り添い、おつとめで治まりを願ひ、病む者にはおさづけを取り次ぎ、真にたすかる道があることを伝えよう。親神様は真実の心を受け取って、自由の御守護をお見せ下される。

教祖お一人から始まったこの道を、先人はひながたを心の頼りとして懸命に通ひ、私たちへとつないで下さった。その信仰を受け継ぎ、親から子、子から孫へと引き継いでいく一歩一歩の積み重ねが、末代へと続く道となるのである。

この道にお引き寄せ頂く道の子一同が、教祖の年祭を成人の節目として、世界たすけの歩みを一手一つに力強く押し進め、御存命でお働き下される教祖にご安心頂き、お喜び頂きたい。

立教百八十五年十月二十六日

真 柱 中 山 善 司

大教会秋季大祭

大教会秋季大祭は、12日午前9時30分から大教会長祭主のもと、執行された。大教会長は祭文で、親神様のご守護にお礼申し上げた後、「今日二十六日に頂戴する論

神殿講話

大教会長



神殿講話概要

いよいよ今月のご本部の秋季大祭に、教祖140年祭に向けて、真柱様より諭達のご発布を頂戴することとなっております。

ご本部の8月月次祭の祭典講話が三濱善朗先生でありましたが、祭典講話の中で諭達について終始お話し下さいました。その中で、諭達の重みについてお話をして下さいました。明治32年2月2日のおさしづを引用して、「鏡やしき

達を心に治め、親神様の思いに溶け込めるようご発布にありしつかりと心作りに努めてまいり所存でございます」と奏上した。

その後座りづとめ・十二下りのてをどりが勤められ、参拝者は共に勇んでみかぐらうたを唱和した。

から打ち出す言葉は、天の言葉である程にとありますように、諭達は正しくこれに相当するものであると申し上げることができると思っております。それだけにまずは、自分自身が心して、真剣に諭達のご発布を待たせて頂きたいと願っております。」とお話を頂きました。

そして少し前ではありませんが、ご本部のある先生より、「あなたは諭達のご発布に伴い、どういう心構えができていくのか」と私自身質問されたことがあります。正直、私は、諭達はどんな内容なのだろうといったような興味本位くらいのものでありまして、全く心構えというものができ

ておりませんでしたので、その先生に、「全く心構えができておりません」とこうお答えしたところ、「それでは諭達を頂戴することができないから、しっかりとこの講話を聞いて心作りをしない」と言われまして、城法大教会の山本久二夫先生の講話のCDを頂きました。

そして役員会ではかり、おぼの理を頂戴できる大教会の大祭に合わせて、皆さんと共に、諭達を頂戴するにあたり、心構えを作らせて頂くということになりましたので、これより立教149年にお話下さった、真柱様の御理というテーマのお話を聞かせて頂きます。

と前置きでお話され、参拝場にて全員でCDを聞かせて頂いた。

「真柱様の御理」
山本久二夫先生お話(立教149年6月14日)
全体で約45分のお話の概要

「真柱様の御理について、稿本天理教祖伝、おふでさ

CDを聞かせて頂き、最後に大教会長が終わりの挨拶をされ、

10月26日、諭達は真柱様よりご発布がございます。今のお話をしっかりと心に治めて、先程もありましたが、三濱先生のお話の中で、自分自身が心して真剣に諭達のご発布を待たせて頂きたいという心構えを持って、真柱様の御理というものを重く受け止めさせて頂き、諭達のご発布を待たせて頂きたい。と締めくくられた。

本部秋季大祭

10月26日、本部秋季大祭が中山大亮様を祭主に快晴のご守護のもと、厳かに執行された。

かぐらづとめ、てをどりが勤められ、その後、真柱様が神殿上段へ進まれ、教祖140年祭活動に取り組み指針となる「諭達第四号」(1ページ目に全文掲載)をご発布下された。真柱様は「諭達」を読み上げられた後、年祭の意義や「諭達」をどう利用してもらいたいかなどをお話下された。



おかえり講話 石崎安善先生

◎おかえり講話

25日、詰所2階大広間にて、館山分教会長・石崎安善先生をお迎えし、講話を聞かせて頂き、その後、お話の内容について練り合いをさせて頂いた。内容は、「どのように信仰を繋げていくか」ということをテーマに、網走大教会に感謝されているお話から始まり、にいがけ、おたすけの大切さを、ご自身の教会の信者さんのことや体験談などを交えてお話下された。お話を聞かせて頂き、心にたくさんのお栄養を頂いた。

き、おさしづから、勉強したいと思えます。

おさしづのあった時代は、初代真柱様のことをお教え頂いていますが、親神様、教祖の教えは、時代が変わっても人が変わっても、その教えが変わるということとは、絶対ないわけでありますので、永遠の真理であります。私達、道を通る者の角目が、親神様の教えでありますので、具体的には初代真柱様のことをお教え頂いておりますが、現真柱様にも当然あてはまることであり、あるいは将来、先々何代か真柱様におきまして、それは変わることのない親神様の御教えであることは、今更言うまでもないことであります。

稿本天理教祖伝に載っておりますが、教祖の三女おはる様が第三子を妊娠された時点で、「今度、おはるには、前川の父の魂を宿し込んだ。しんばしらの眞之亮やで。」と教祖は男女の区別もつかない生れる前から真柱を定めていて、真柱様の魂のお持ちの方が、生まれてくることを予言されました。月満ちて、慶

◎回廊拭きひのきしん

26日朝、布教部主催の回廊拭きひのきしんが行われた。31名の参加者が集まり、勇んで回廊拭きをさせて頂いた。回廊拭き終了後、教祖の朝のお出ましを拝させて頂き、朝づとめを参拝して詰所へ戻らせて頂いた。



教会長諭達勉強会の様子

◎教会長諭達勉強会

26日13時、詰所2階大広間にて、教会長諭達勉強会が開かれた。

最初に大教会長から挨拶があり、続いて、真柱様がお読み下された諭達を録音したものを全員で聞かせて頂いた。その後、班ごとに分かれて、諭達を聞かせて頂き、どのように思わせて頂いたかをそ

応2年、丈夫な玉のような男の子が生れて、教祖は、「長男亀蔵として生れ出たが、長男のために親の思いがかかるために一度迎えとって三男として生れさせた」と仰せになりました。

真柱というお立場は、人間の計らいで定めたものではありませぬ。教祖の予言のもとお生まれになったことを心に治めなければなりません。

真柱様は、親神様、教祖がお定め下され、たすけ一条の道の中心として、陽気ぐらし実現の先導者という意味をもつてお生まれになったのです。真柱の理を立てることは、親神様、教祖の思召に添うことであり、親神様、教祖がお喜び下さることであると素直に信ずることが重要であります。

初代真柱様がお生まれになった慶応2年は、よろづたすけの道としてお教え頂いているおつとめをお教え始められた年であり、初代真柱様が中山家の籍に入られ、中山家の人となられた明治15年は、おつとめの全貌を整えられた年でありませぬ。親神様、教祖の深い思召を感じます。おつ

◎第96回天理教青年会総会

10月27日、3年ぶりとなる青年会総会が開催された。今年には第1部と第2部があり、第1部は神殿・東礼拝場に集合し、おつとめをした後、真柱様よりお言葉を頂戴した。その後、本部第二食堂へ移動し、第2部が開催され、総会を行った。

新型コロナウイルス感染症予防のため、今回の総会は1階1層の参加のみとなり、一般会員には第2部の総会の様子がYouTubeで配信された。



守護の御人	
初席	中席
10月	
1席	9席
累計	
11席	51席

とめによって陽気ぐらしを実現をするためにそのことを中心にお生まれになっていきます。真柱の理とおつとめは切っても切れないものがあります。おつとめを通して親神様の御理を立てることになるのです。真柱様は、道の中心となるお立場であり、親神様、教祖のたすけ一条の思召を体してそれを実現する上から、芯となり、先導者となり、あるいは、教祖よりおさづけをお渡しくださいとめでは、おつとめ頂き、旬々には、道の者のあり方をいろいろとお教え下さり、親神様の深い陽気ぐらし実現という思召を体されて、その実現の芯となっておられる方であられます。

真柱様の一つひとつのお言葉を我々はしっかりと心に治めて、日々通らせて頂いたならば、何も言うことはない、とおさしづでお教え頂いております。真柱の理を立てなければ、この道は成り立たないのではありません。」

動 静

◎記念祭

▼誠央分教会は10月7日、誠央分教会にて、永井康幸・誠央分教会長祭主のもと、創立70周年記念祭が執行された。

◎年 祭

▼直轄所属・白木富士子の霊様の5年祭が10月9日、清里町の自宅にて瀬川定自・直轄世話人祭主のもと執行された。
▼直轄所属・田中純枝の霊様50日祭・合祀祭が10月29日、大教会にて瀬川定自・直轄世話人祭主のもと執行された。

◎納骨式

▼直轄所属・垣内堯男の霊様の納骨式が9月13日、天理教網走霊園にて瀬川陽一・直轄世話人祭主のもと執行された。

10月人のマシ守護

○初席者 (1名)

直 轄 奥

○中席者 (5名)

常 呂 野 村 晃 巧
徳 元 山 古 田 野 奥
山 本 館 中 昌 村 奥
裕 有 弓 昌 晃 巧
子 弘 子 広 巧

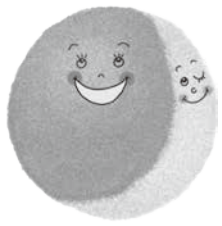
○おさづけの理拝戴者(1名)
徳元 山本裕子
○別席傍聴願 (4名)
○をびや許願 (1名)

育英会寄付者

誠央分教会 創立70周年記念
誠華集談所 集談所開設
田中 繁様 妻出直

大教会10月の動き

1日 役員会会議
2日 縦の伝道日
4日 みそか会
6日 直轄世話人会
7日 お話し会
8日 神殿上段大掃除
9日 網走支部例会会場
10日 役員会会議
11日 布教部例会
12日 秋季大祭。役員会会議。連絡会。教会長夫妻練り合い
13日 参拝場、回廊大掃除
16日 縦の伝道日
17日 支部婦人会例会会場
20日 会長、直轄信者まわり(22日まで)
23日 会長、おぢばがえり。詰所23会。縦の伝道日



第30回 女子青年大会

立教185年/2022年
11月27日(日)午前10時
場所 本部中庭
大会テーマ

教えを学び 教祖にお喜びいただける日々を
～感謝の心をおぢばにつなごう～

24日 会長、本部神殿奉仕つとめる
25日 五季御礼。詰所おかけり講話
26日 本年秋季大祭遙拝。結城和広役員、本部神殿奉仕つとめる。
27日 教会長諭達勉強会(詰所)
28日 会長夫妻、教祖百四十年祭決起の集い参加。細木善信役員、本部神殿奉仕つとめる
29日 会長、災救隊本部主事訓練(29日まで)
30日 縦の伝道日

立教185(令和4)年人のご守護成果表 (10月末現在)

教会名	初席		中席		ようほく		三日講		修卒		教人		婦参者		当 月		累 計	
	当	果	当	果	当	果	当	果	当	果	当	果	当	果	当	果	当	果
直轄	2	6													16	112		
美幌	1														1	3		
女満別															3	37		
斜里															2	2		
釧路															1	3		
武厚															1	3		
常呂					1										3	21		
旭網					1										1	15		
御料															4	8		
東藻															0	0		
陽光															1	24		
呼人					1										2	16		
誠陽															1	13		
網栄															2	2		
實東															8	23		
宗 網	2	6													1	5		
宗 稚															1	11		
初席	1	11																
中席		9		51														
ようほく				1												8		
三日講																		
修 卒																		
教 人																		
婦参者																		
当 月	1	11		9		51		1							8			
累 計																		
当 月																		
累 計																		

秋季大祭 10/12(水)

(参拝者数 約90人)

神職講話	賛 者	指図方	扨者	祭主	祭 員	祭 典	座りづとめ	前 半	後 半
大教会長	遠藤 三安 清水 桐谷 浩春 光信 善喜 二雄 広	新川 正人	菅原 明宏	大教会長					
胡三味琴弓線	小す太拍ち り が 子ん 笛 が 鼓ね 鼓木 ほん	地 方	てをどり		祭 員	祭 典	座りづとめ	前 半	後 半
栗山藤	瀬細藤桐澤三 川木山谷田幣 崎井 道	斎大結 藤山城	栗林青丸大 リツツ夫一 子入 聖子 徳	大教会長 新川正人 丸山徳	祭 員	祭 典	座りづとめ	前 半	後 半
聖薦道代	定善重厚忠正 自信善平和志	芳雅和 徳 広			祭 員	祭 典	座りづとめ	前 半	後 半
斎澤田	菅小清桐吉遠 原林水谷村田 由 明	田小三 中針幣	大細丸遠在小 山木山藤原松 泰朱り浩道篤 子美子二志		祭 員	祭 典	座りづとめ	前 半	後 半
知美裕 子子子	恒信善光眞 宏彦喜広正明	敏敦 繁文志			祭 員	祭 典	座りづとめ	前 半	後 半
栗新三 林川幣 千美代 直穂子 美子	藤増奥伊永真 井田野井東壁 広裕直康徳正 志一治幸明教	三三新 幣澤川	三三新 幣澤川	三三新 幣澤川	祭 員	祭 典	座りづとめ	前 半	後 半